［た　よ　り］

常任理事会だより

山川智之

本稿では，前号で報告後平成21年7月24日，9月25日，10月23日に開催された計3回の常任理事会の内容のうち主なものをお伝えするとともに，日本透析医会の主な活動についてご報告します．

1. 新型インフルエンザへの対応について

8月15日に新型インフルエンザによる本邦初の死亡者が透析患者であったことは，透析関係者並びに患者に大きな衝撃を与えました．その後ワクチンの供給が限られていることがあり，ワクチンの接種優先順位が大きな問題になりましたが，日本透析医学会の先生方，全腎協の方々のご努力もあり，透析患者については，「基礎疾患を有する者」の扱いとして優先接種が受けられるようになりました．なお，執筆の現時点（11月上旬）においては，医療従事者向けのワクチンが大幅に不足しているようです．状況によっては行政への働きかけ等も行いたいと考えております．

なお，新型インフルエンザ対策合同会議からの緊急連絡文として「慢性透析患者の新型インフルエンザの診断と治療に関するご注意」を医会ホームページに掲載しております．透析患者におけるインフルエンザの診断と治療等について示したものです．

2. 診療報酬改定に対する対応について

8月30日の衆議院議員総選挙で民主党が圧勝し，自公連立政権から民主党中心の連立政権となりました．民主党のマニフェストでは，これまでの社会保障費削減の方針を止めて診療報酬を増額する，としていますが，透析医療に関して言えば，現時点（11月上旬）においては次回の診療報酬の改定は予断を許さない状況にあると言わざるをえません．

7月10日に行われた中医協の診療報酬調査専門組織（医療機関のコスト調査分科会）において，DPC対象病院・DPC準備病院からのデータを元に，透析部門において収益率が27%という数字が出されました．この数字については，集計の方法に根本的な誤りがあること，またサンプル数も少なく偏りがあることを厚生労働省の担当者にも指摘しておりますが，透析医療の現状を十分理解してもらっているとは言い難い状況です．引き続き各方面に働きかけを行い，透析医療の崩壊と言っていい現象や徴候がみられる状況の流れを変えるように努力して参りたいと考えております．

日本透析医会常務理事

3. 全腎協との懇談会

9月25日，東京で全国腎臓病協議会の役員の方々と意見交換会を行いました．臓器移植法案改正の取り組み，透析医療の諸問題に関する行政への働きかけなどについて活発な議論が行われました．

4. 日本透析医会シンポジウムなど

平成21年10月4日，東京品川コクヨホールにおきまして，「維持透析療法の明日を拓く」と題して日本透析医会シンポジウムを開催しました．ご参加いただいた先生方には心より感謝申し上げます．講演の内容につきましては，次号以降に掲載の予定です．

なお今後の予定ですが，平成22年3月7日(日）に日本透析医会研修セミナー，10月3日（日）には日本透析医会シンポジウムを開催することになっております．場所は今年と同じく品川のコクヨホールです．来年3月の研修セミナーの内容については，今号巻頭の案内をご参照ください．

5. 公募研究助成について

日本透析医会の公募研究助成にご応募いただき誠にありがとうございました．厳正な審査の上，助成内容を決定させていただきました．なお，複数の申請について，申請内容について問題があるものがございました．また研究終了後に残る備品については助成の対象になりません．次回以降，十分に内容を検討の上での申請をよろしくお願いします．

6. 小野山攻先生（前常務理事）を偲ぶ

長らく日本透析医会の役員を務められた小野山攻（おさむ）先生が，平成21年9月21日ご逝去されました．享年65歳の若さでした．

小野山先生は昭和48年に小野山診療所を開設，大阪透析研究会の発起人，大阪透析医会の設立時の世話人をされるなど，大阪の透析医療の発展に長らく貢献されてこられました．日本透析医会には平成11年に理事に就任，平成13年からは常任理事として，平成21年にご自分のご病気を理由に退任されるまで，医療廃棄物の問題など医会の運営に尽力されてこられました．

研究会・学会でも自ら発表され，公の仕事や自分の診療所での診療にも忙しい中，水彩画や写真も嗜まれる多趣味な一面もお持ちでした．キャリアの円熟期に差し掛かり，これから大阪の透析医療を引っ張っていただかなければならない矢先のことで残念でなりません．

先生のご冥福を心からお祈りし謹んで哀悼の意を申し上げます．